

## 業績目録(平成25年)

講座名 在宅チーム医療推進学

### (A-a) 英文著書

### (A-b) 和文著書

- 1 山脇正永. 嚥下障害. 水澤英洋他編. 今日の神経疾患治療指針. 医学書院, pp51-56, 2013.
- 2 山脇正永. 神経疾患. 奈良信雄編. 一般臨床医学. 医歯薬出版社, 220-236, 2013.
- 3 山脇正永. 神経疾患. 公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修. 医歯薬出版株式会社, pp 220-236, 2013.
- 4 横関恵美, 巨島文子. 神経疾患の摂食・嚥下障害. 言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学, 医歯薬出版, pp57-66, 2013.

### (B-a) 英文総説

### (B-b) 和文総説

- 1 山脇正永. 興味とやる気を引き出す指導法 医学教育 update. 松仁会医学誌 51 : 101-105, 2013.
- 2 山脇正永. 高齢者の嚥下障害, その評価と対応 嚥下機能評価の実際とその解釈. 日本老年医学会雑誌 50 : 461-464, 2013.
- 3 山脇正永. 嚥下運動の中樞神経メカニズム. 嚥下医学 2: 212-216, 2013.
- 4 山脇正永. 卒後教育における漢方教育 卒後臨床研修および研修指導医の現状と課題. 治療 95 : 1687-1690, 2013.
- 5 山脇正永. 神経・精神症候からのアプローチ 主要神経・精神症候と鑑別診断 嚥下障害 飲み込みにくい. 日本医師会雑誌 142:S111-112, 2013.
- 6 濱島高志, 森洋一, 松井道宣, 小西靖彦, 山脇正永, 山畑佳篤, 渡辺康介, 木下隆, 医療トレーニングセンター運営委員会. 京都府医師会による医療トレーニングセンターの運営. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 1 : 16-19, 2013.
- 7 河内明宏, 内藤泰行, 山田恭弘, 三木恒治. 小児症例に対する腹腔鏡下腎盂形成術. Japanese Journal of Endourology 26(2) : 228-230,

2013.

- 8 山代亜紀子, 細川豊史, 深澤圭太, 大西佳子, 権哲. 【ペインクリニック診療の課題と展望】 緩和医療を受け持つペインクリニック診療における課題と展望. ペインクリニック 34(6) : 760-770, 2013.
- 9 建部陽嗣, 樋川正仁. 基礎研究で示唆された鍼の血圧下降メカニズム. 医道の日本 72(1) : 236-238, 2013.
- 10 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼治療の費用対効果 医療費削減に貢献できるか. 医道の日本 72(2) : 174-176, 2013.
- 11 建部陽嗣, 樋川正仁. 技術がなくてもカリスマ鍼灸師になれる? 患者心理に左右される鍼治療の効果. 医道の日本 72(3) : 178-180, 2013.
- 12 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼灸否定派の意見を知る 鍼灸治療の衰退を予言する論文の中身. 医道の日本 72(4) : 215-217, 2013.
- 13 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼局所鎮痛メカニズムを解明できるか「アデノシン説」の新たな論文. 医道の日本 72(5) : 170-172, 2013.
- 14 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼刺激による脳の活性部位 fMRI 研究から分かること. 医道の日本 72(6) : 166-168, 2013.
- 15 建部陽嗣, 樋川正仁. アルツハイマー病の治療に新たな光? 鍼刺激が脳神経活動の糖代謝に及ぼす影響. 医道の日本 72(7) : 178-180, 2013.
- 16 建部陽嗣, 樋川正仁. 先入観(文脈効果)が臨床に与える影響. 医道の日本 72(8) : 174-176, 2013.
- 17 建部陽嗣, 樋川正仁. 先入観(文脈効果)が鍼治療の研究に与える影響. 医道の日本 72(9) : 166-168, 2013.
- 18 建部陽嗣, 樋川正仁. 臨床経験が発達させる「鍼灸師脳」. 医道の日本 72(10) : 176-178, 2013.
- 19 建部陽嗣, 樋川正仁. 有害事象をまとめた論文から日本鍼灸界の問題点をあぶり出す. 医道の日本 72(11) : 188-190, 2013.
- 20 建部陽嗣, 樋川正仁. エビデンス確立のために開発された各種プラセボ鍼を比較する. 医道の日本 72(12) : 176-178, 2013.

(C-a) 英文原著

- 1 Hirata S, Matsuda G, Ueno A, Fukushima H, Fuwa K, Sugama K, Kusunoki K, Tomonaga M, Hiraki K, Hasegawa T. Brain response to affective pictures in the chimpanzee. Sci Rep. 3: 1342, 2013. (IF=5.228)
- 2 Fukushima H, Hirata S, Matsuda G, Ueno A, Fuwa K, Sugama K, Kusunoki K, Hiraki K, Tomonaga M, Hasegawa T. Neural representation of face familiarity in an awake chimpanzee. PeerJ. 1: e223, 2013. (IF=2.183)

(C-b) 和文原著

- 1 横田智弘, 山田恭弘, 高羽夏樹, 米田公彦. 骨盤外傷に合併した後部尿道完全断裂の2例. 公立南丹病院医学雑誌 15(1) : 31-34, 2013.
- 2 野瀬愛乃, 桑原理恵, 建部陽嗣. 顔の美容上の悩みと東洋医学的な症状との関連性. 東洋療法学校協会学会誌 37 : 102-104, 2013.

(D) 学会発表

I) 特別講演, 教育講演等

- 1 山脇正永. スタッフセミナー. 嚥下障害への対策. 第54回日本神経学会総会、平成25年5月19日、東京
- 2 山脇正永. Community-based Medical Education. 第45回日本医学教育学会総会. 平成25年7月28日、千葉

II) シンポジウム, ワークショップ, パネルディスカッション等

- 1 権哲. がん長期生存者と遷延する痛み, オピオイド使用とそれに伴う依存—食道がん術後の創部痛にレスキュー使用を伴う依存症に陥った1症例—. 第42回慢性疼痛学会. シンポジウム. 2013年2月22日; 東京.

III) 国際学会における一般発表

- 1 Yamawaki M. Development of reasoning ability in team-based learning (TBL). AMEE (Association of Medical Education) 2013; Prague, Hungary.
- 2 Yamawaki M, Shibano S, Dan I. Effects on body position on Swallowing Movement. Society for Neuroscience, 2013; San Diego.
- 3 Tatebe H, Egawa M, Fukuda S, Yamaguchi T, Mizuno T, Namura K. Effect of acupuncture for motor symptoms and quality of life in Parkinson's disease. 5th Global University Network of Traditional Medicine. 2013年11月16日; Kyoto.
- 4 Tatebe H, Tokuda T, Ishii R, Mizuta I, Taguchi K, Kasai T, Watanabe Y, Tanaka M, Nakagawa M, Mizuno T.  $\alpha$ -Synuclein is present as a monomer in the biological fluids. 20th World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders. 2013年12月11日; Geneva, Switzerland.
- 5 Ishii R, Tokuda T, Tatebe H, Kasai T, Mizuno T, Nakagawa M. Interference from heterophilic antibodies in  $\alpha$ -syn ELISA. 20th World Congress on Parkinson's Disease and Related Disorders. 2013年12月11日; Geneva, Switzerland.

## E 研究助成（競争的研究助成金）

総額 1503.8 万円

※ 金額につきましては、すべて本人への助成金額を記入してください。また、当該年度の直接経費のみを記載してください。

### 公的助成

代表（総額）・小計 1478.8 万円

- 1 文部科学省大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）平成 24～28 年度  
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成、診療  
参加型臨床実習の質保証システムの確立 助成金額 950 万円
- 2 文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）平成 23～25 年度  
大脳・延髄ネットワークをターゲットとした新規嚙下障害治療法の開発  
助成金額 182 万円
- 3 厚生労働省科学研究費補助金 平成 24～25 年度  
地理情報システム(GIS)を用いた在宅医療における有床診療所の役割に関  
する研究 助成金額 190.8 万円
- 4 文部科学省科学研究費（研究活動スタート支援）平成 24～25 年度  
アルファ・シヌクレインの神経毒性及びプリオン様伝播の分子機構の解明  
とその臨床応用 助成金額 156 万円

### 財団等からの助成

代表（総額）・小計 25 万円

- 1 全日本鍼灸学会 研究助成. 平成 25 年度  
刺鍼動作による鍼体および押手への生体付着物の解析. 助成金額 25 万円

## 業績目録(平成26年)

### 講座名 在宅チーム医療推進学

#### (A-a) 英文著書

#### (A-b) 和文著書

- 1 櫻井かづみ, 根津幸彦, 建部陽嗣. 介護に役立つアロマセラピーの教科書. 東京: BAB ジャパン, 2014.
- 2 山根由起子. 脳卒中の摂食・嚥下障害. 脳神経看護ケア関連図. 東京: 中央法規, pp50-61, 2014.
- 3 山根由起子. 末梢神経疾患 ギラン・バレー症候群. 脳神経看護ケア関連図. 東京: 中央法規, pp188-95, 2014.
- 4 山本美絵, 山根由起子. 脳血管障害クモ膜下出血. 脳神経看護ケア関連図. 東京: 中央法規, pp100-9, 2014.

#### (B-a) 英文総説

#### (B-b) 和文総説

- 1 山脇正永. メディカルスタッフのための疾患講座 重症筋無力症の概念. 嚥下医学 3(2): 197-201, 2014.
- 2 山脇正永. 老年期の摂食嚥下障害と対策 嚥下はどのように行われるのか(中枢神経の働き). 日本早期認知症学会誌 7(2): 117, 2014.
- 3 山脇正永. 【最新臨床脳卒中学[上]-最新の診断と治療-】 脳卒中に伴う諸症状とその管理 嚥下障害と誤嚥性肺炎. 日本臨床 72 増刊号 5:647-53, 2014.
- 4 山脇正永. 【神経診察-そのポイントと次の一手】 神経診察の流れとポイント. Medicina 51(7): 1190-3, 2014.
- 5 山脇正永. これからの地域医療 コミュニティに根ざしたまなぎしの涵養. 京都府立医科大学雑誌 123(12): 823-832, 2014.
- 6 権 哲, 細川豊史. オピオイド鎮痛薬による乱用・依存の症例検討. ペインクリニック 35(1): 39-48, 2014.
- 7 建部陽嗣, 樋川正仁. イギリスで実施されたうつ病に対する鍼治療効果の大規模調査. 医道の日本 73(1): 228-230, 2014.
- 8 建部陽嗣, 樋川正仁. 海外で研究が進む薬物中毒への鍼刺激効果. 医道

- の日本 73(2): 166-168, 2014.
- 9 建部陽嗣, 樋川正仁. 中国経穴本と韓国教科書の鍼の刺入深度を検討してみた。医道の日本 73(3): 168-170, 2014.
  - 10 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼研究のスタンダードを問う。医道の日本 73(4): 168-170, 2014.
  - 11 建部陽嗣, 樋川正仁. ドイツで実施された小児、青年期がん患者へのアンケート調査結果。医道の日本 73(5): 181-183, 2014.
  - 12 建部陽嗣, 樋川正仁. ひびきは皮膚温を変化させるか。医道の日本 73(6): 172-174, 2014.
  - 13 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼に抗炎症作用? 新たな研究結果の衝撃(1)。医道の日本 73(7): 180-182, 2014.
  - 14 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼に抗炎症作用? 新たな研究結果の衝撃(2)。医道の日本 73(8): 154-156, 2014.
  - 15 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼刺激に慣れることによって引き起こされる現象。医道の日本 73(9): 160-162, 2014.
  - 16 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼鎮痛メカニズム解明に迫る動物実験の世界レベル。医道の日本 73(10): 164-166, 2014.
  - 17 建部陽嗣, 樋川正仁. 超高齢社会を先進する日本 脳卒中への鍼治療研究は遅れ気味。医道の日本 73(11): 154-156, 2014.
  - 18 建部陽嗣, 樋川正仁. プラセボは治療につきもの!? 「非特異的効果」に切り込む研究論文。医道の日本 73(12): 162-164, 2014.

(C-a) 英文原著

- 1 Mori H, Matsuda K, Yamawaki M, Kawata M. Estrogenic regulation of histamine receptor subtype H1 expression in the ventromedial nucleus of the hypothalamus in female rats. *PLoS One* 9(5): e96232, 2014. (IF=3.057)
- 2 Naitoh Y, Kawauchi A, Yamada Y, Fujihara A, Hongo F, Kamoi K, Okihara K, Miki T. Laparoendoscopic single-site versus conventional laparoscopic pyeloplasty: A matched pair analysis. *Int J Urol* 21(8): 793-6, 2014. (IF=1.878)
- 3 Naitoh Y, Yamada Y, Fujihara A, Naya Y, Hongo F, Kamoi K, Okihara K, Miki T. Percutaneous nephrolithotripsy and antegrade ureterolithotripsy in a 10-month-old infant with urinary stones in both kidney and ureter. *Int J Urol*. 2014. [Epub ahead of print]. (IF=1.878)
- 4 Watanabe Y, Yoshimoto K, Tatebe H, Kita M, Nishikura K, Kimura M, Tanaka M. Enhancement of alcohol drinking in mice depends on

- alterations in RNA editing of serotonin 2C receptors. *Int J Neuropsychopharmacol* 17(5):739-51, 2014. (IF=4.333)
- 5 Taguchi K, Watanabe Y, Tsujimura A, Tatebe H, Miyata S, Tokuda T, Mizuno T, Tanaka M. Differential expression of alpha-synuclein in hippocampal neurons. *PLoS One* 9(2): e89327, 2014. (IF=3.057)
- 6 Ozawa S, Matsuda G, Hiraki K. Negative emotion modulates prefrontal cortex activity during a working memory task: a NIRS study. *Front Hum Neurosci.* 8: 46, 2014. (IF=4.121)
- 7 Tamamiya Y, Matsuda G, Hiraki K. Relationship between Video Game Violence and Long-Term Neuropsychological Outcomes. *Psychology.* 5: 1477-87, 2014.

(C-b) 和文原著

- 1 滋賀健介, 水田依久子, 能登祐一, 中川正法, 佐々木良元, 山脇正永. 2週間持続する脱力発作を呈したナトリウムチャンネル異常症の1家系. *臨床神経学* 54(5): 1182-8, 2014.
- 2 内藤泰行, 山田恭弘, 藤原敦子, 沖原宏治, 河内明宏, 三木恒治. 膀胱尿管逆流症に対する経膀胱的逆流防止術の長期成績. *Japanese Journal of Endourology* 27(2): 299-302, 2014.
- 3 権 哲, 細川豊史. オピオイド鎮痛薬による乱用・依存の症例検討. *ペインクリニック* 35(1): 39-48, 2014.
- 4 権 哲, 細川豊史, 深澤圭太, 吉本祐子. 食道がん術後の創部痛にレスキューを伴うオピオイド鎮痛薬の処方を行い依存症に陥った1症例. *日本ペインクリニック学会誌* 21(1): 50-53, 2014.

(D) 学会発表

I) 特別講演、教育講演等

- 1 山脇正永. 摂食・嚥下運動の病態生理: 脳機能からみたメカニズム, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 教育講演, 東京.
- 2 山脇正永. 認知症と嚥下障害. 早期認知症学会 特別講演, 千葉.
- 3 山脇正永. 嚥下障害と誤嚥性肺炎. 日本内科学会 近畿地方会 専門医部会セミナー, 大阪.

II) シンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション等

- 1 権 哲, 細川豊史. オピオイドと鎮痛薬の使い方 がん患者に生じる痛みに対するオピオイド鎮痛薬の正しい使い方とその問題点. 日本ペインクリニック学会第48回大会. 2014年7月25日; 東京.

- 2 青山寿昭, 都築智美, 山根由起子, 坂田久美子, 柚木さよ, 高橋誠一.  
命を救う! 食を助ける! 看護師たち. 第 34 回日本看護科学学会学術集会.  
2014 年 11 月 30 日; 名古屋.

### Ⅲ) 国際学会における一般発表

- 1 Ozawa S, Matsuda G, Hiraki K. Negative emotion modulates prefrontal cortex activity during a working memory task: A NIRS study. Cognitive Neuroscience Society 21st Annual Meeting. 2014 年 4 月 6 日; Boston, USA.
- 2 Urushihara M, Matsuda G, Tamamiya Y, Hiraki K. The mechanism of watch steal: The effect of power grip. Cognitive Neuroscience Society 21st Annual Meeting. 2014 年 4 月 6 日; Boston, USA.

## E 研究助成 (競争的研究助成金)

総額 1259.4 万円

### 公的助成

代表 (総額)・小計 1169.4 万円

- 1 文部科学省大学改革推進等補助金 (大学改革推進事業) 平成 24~28 年度  
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成、診  
療参加型臨床実習の質保証システムの確立 助成金額 886 万円
- 2 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C) 平成 26~28 年度  
中枢神経コネクトームを介した新規嚥下障害治療法の開発 助成金額  
120 万円
- 3 厚生労働省 専門医認定支援事業 厚生労働省 平成 26 年度 助成金  
額 163.4 万円

分担・小計 65 万円

- 1 厚生労働省科学研究費補助金 平成 26 年度  
高齢者の摂食嚥下・栄養に関する地域包括的ケアについての研究 助成  
金額 65 万円

### 財団等からの助成

代表 (総額)・小計 25 万円

- 1 全日本鍼灸学会 研究助成. 平成 25 年度  
刺鍼動作による鍼体および押手への生体付着物の解析. 助成金額 25 万  
円



## 業績目録（平成27年）

講座名 在宅チーム医療推進学

### (A-a) 英文著書

### (A-b) 和文著書

- 1 大西佳子, 細川豊史, 吉岡とも子. がん性髄膜炎の頭痛. 緩和ケア、青海社、26 (1) : 48-53, 2016.

### (B-a) 英文総説

### (B-b) 和文総説

- 1 山脇正永. スチューデント・ドクターの導入. 日本内科学会雑誌 104(12) : 2517-2522, 2015.
- 2 山脇正永. 嚥下障害の神経メカニズム 加齢変化も含めて. 日本早期認知症学会誌 8(2) : 26-30, 2015.
- 3 山脇正永. 福祉の現場から 最期までおいしく食べるために 新たな嚥下障害治療法・対応法の開発. 地域ケアリング 17(6) : 68-71, 2015.
- 4 山脇正永. 症例 私の治療方針(series 07) 進行性核上性麻痺. 嚥下医学 4(1) : 20-26, 2015.
- 5 建部陽嗣, 樋川正仁. 膝痛への鍼治療効果を否定した JAMA 誌掲載論文の詳細. 医道の日本 74(1) : 258-260, 2015.
- 6 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼治療に影響する新たな要因を探る. 医道の日本 74(2) : 186-188, 2015.
- 7 建部陽嗣, 樋川正仁. 香港の研究者らが検討した鍼治療による有害事象の要因. 医道の日本 74(3) : 180-182, 2015.
- 8 建部陽嗣, 樋川正仁. 灸の煙は有害か無害か? 中国での実験結果. 医道の日本 74(4) : 139-141, 2015.
- 9 建部陽嗣, 樋川正仁. 期待する心理を解析. プラセボ鎮痛の最新研究. 医道の日本 74(5) : 160-162, 2015.
- 10 建部陽嗣, 樋川正仁. 鍼の技術教育に一石を投じる韓国の実験. 医道の日本 74(6) : 151-153, 2015.
- 11 建部陽嗣, 樋川正仁. 米国から美容鍼の被害症例報告. 流行に追従できない安全性の研究. 医道の日本 74(7) : 156-158, 2015.

- 12 建部陽嗣, 樋川正仁. 施術者の刺入感覚を欺けるか? ダブルブラインドの妥当性. 医道の日本 74(8): 178-180, 2015.
- 13 建部陽嗣, 樋川正仁. 新たな鍼治療研究方法の提案「リアルワールドリサーチ」. 医道の日本 74(9): 165-167, 2015.
- 14 建部陽嗣, 樋川正仁. スウェーデンが先行する陣痛に対する鍼の大規模調査. 医道の日本 74(10): 151-153, 2015.
- 15 建部陽嗣, 樋川正仁. スイスとアメリカで起きた稀な鍼の有害事象. 医道の日本 74(11): 139-141, 2015.
- 16 建部陽嗣, 樋川正仁. がん性骨痛に対する鍼治療研究で最近行われた動物実験の傾向. 医道の日本 74(12): 169-171, 2015.

(C-a) 英文原著

- 1 Yamada Y, Okihara K, Iwata T, Masui K, Kamoi K, Yamada K, Miki T. Salvage brachytherapy for locally recurrent prostate cancer after external beam radiotherapy. *Asian J Androl.* 17(6):899-903, 2015. (IF=2.644)
- 2 Tsujimura A, Taguchi K, Watanabe Y, Tatebe H, Tokuda T, Mizuno T, Tanaka M. Lysosomal enzyme cathepsin B enhances the aggregate forming activity of exogenous  $\alpha$ -synuclein. *Neurobiol Dis.* 73: 244-253, 2015. (IF=4.856)
- 3 Ishii R, Tokuda T, Tatebe H, Ohmichi T, Kasai T, Nakagawa M, Mizuno T, El-Agnaf OM. Decrease in plasma levels of  $\alpha$ -synuclein is evident in patients with Parkinson's disease after elimination of heterophilic antibody interference. *PLoS One.* 10(4): e0123162, 2015. (IF=3.057)
- 4 Chambers JK, Tokuda T, Uchida K, Ishii R, Tatebe H, Takahashi E, Tomiyama T, Une Y, Nakayama H. The domestic cat as a natural animal model of Alzheimer's disease. *Acta Neuropathol Commun.* 3(1):78, 2015.

(C-b) 和文原著

- 1 入江 仁, 加藤陽一, 安 炳文, 山畑佳篤, 太田 凡, 山脇正永. 指導医の患者家族面談から研修医はなにを学んでいるか 救急外来研修中の重症高齢患者診療についての質的研究. *医学教育* 46(5): 401-408, 2015.
- 2 阪上順一, 十亀義生, 入江 仁, 西川太一郎, 横関恵美, 浅野麻衣, 白山武司, 岡山哲也, 松原 慎, 大藪知香子, 辻有希子, 内山和彦, 田中武兵, 嶋本貴之, 滋賀健介, 鎌田和浩, 松本しのぶ, 水谷信介, 山脇正

永, 能登祐一, 伊藤義人. 石灰沈着性頸長筋炎 症例報告と本邦報告例の文献的考察. 日本病院総合診療医学会雑誌 8(2):14-18, 2015.

- 3 山根由起子, 鎌倉やよい, 深田順子, 片岡笑美子, 安井敬三, 長谷川康博, 波多野範和, 関 行雄. 脳卒中急性期における誤嚥性肺炎のリスク評価アルゴリズムの開発. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌 19(3): 201-213, 2015.

#### (D) 学会発表

##### I) 特別講演、教育講演等

- 1 山脇正永. 神経難病の摂食・嚥下障害, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 教育講演, 2015; 京都.

##### II) シンポジウム、ワークショップ、パネルディスカッション等

- 1 山脇正永. 認証評価に向けて IR センターの準備をできることから始めましょう. 日本医学教育学会 ワークショップ, 2015; 新潟
- 2 山脇正永. 臨床 IR センターの活動について 京都府立医科大学の取り組み. 日本医学教育学会 ワークショップ, 2015; 新潟
- 3 山脇正永. 多職種医療プロフェッショナル教育, 日本病院薬剤師会 近畿学術大会. シンポジウム, 2015; 神戸.
- 4 山根由起子, 山脇正永, 藤島一郎, 梅崎俊郎. プライマリ・ケアにおける嚥下障害・誤嚥性肺炎予防への対応: 日本嚥下医学会とのジョイント・ワークショップ. 第 6 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会. 2015 年 6 月 13 日; 筑波

##### III) 国際学会における一般発表

#### E 研究助成 (競争的研究助成金)

総額 1151.3 万円

#### 公的助成

代表 (総額)・小計 1001.3 万円

- 1 文部科学省大学改革推進等補助金 (大学改革推進事業) 平成 24~28 年度 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成、診療参加型臨床実習の質保証システムの確立 助成金額 721.3 万円
- 2 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C) 平成 26~28 年度 中枢神経コネクトームを介した新規嚥下障害治療法の開発 助成金額

130 万円

- 3 文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）平成 27～29 年度  
Automatic imitation による摂食嚥下リハビリテーション法の開発助成  
金額 150 万円

分担・小計 50 万円

- 1 厚生労働省科学研究費補助金 平成 27 年度  
高齢者の摂食嚥下・栄養に関する地域包括的ケアについての研究 助成  
金額 20 万円
- 2 文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）平成 27～29 年度  
パーキンソン病の神経障害性  $\alpha$ -シヌクレインオリゴマーの同定と分子  
標的治療への応用 助成金額 30 万円

財団等からの助成

代表（総額）・小計 100 万円

- 1 公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 在宅医療研究への助成. 平  
成 27 年度. 在宅における摂食嚥下障害者への必要な評価とケアの質の  
向上を推進する事業. 助成金額 100 万